

アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット2019

カリキュラム・マネジメント調査研究 研究発表  
授業時数の確保の取組及び複式学級に  
おける研究実践

令和元年8月5日（月）

鹿児島県教育庁義務教育課義務教育係

# 1 鹿児島県の教育の現状

## 南北600キロの教育

### ● 学級規模別にみた県下の学校

平成30年5月1日現在

学級数	1から2	3～5	6～11	12～18	19～30	31～52	計
小学校	13	192	166	67	53	13	504
中学校	30	79	62	32	16	0	219
義務教育学校	0	0	2	0	0	0	2

県内小・中学校等の約3割が離島

県内小学校等の約45%に複式学級



# 1 鹿児島県の教育の現状

## 土曜授業の実施

- **教育課程全体の見直し**により、各学校の教育課題の解決に努める。
- 主体的に考え、判断し、活用できる力の育成を目指した工夫ある授業改善に努める。
- 授業は**半日単位**で、**月1回程度**（原則第2土曜日）とし、教育課程に位置付ける。
- **43全市町村で実施**している。



## 2 調査研究の概要

### (1) 授業時数を確保する研究実践

- 15分の短時間学習の活用
- 15分＋45分の60分授業の試行と分析
- 週単位時間の増加（月曜日の6校時）
- 土曜授業を含めた年間指導計画の見直しによる  
時数確保

### (2) 複式学級における研究実践

- 「学年別指導」と、A・B年度による「同単元指導」を基本とした指導計画作成と試行
- 短時間学習の実施とよりよい運用の模索
- A L T・地域人材やI C Tの活用，小小連携，小中連携等による複式指導の課題解決



## 2 調査研究の概要

### (3) 調査研究校について

① 南さつま市立万世小学校（7学級）

② 鹿屋市立鹿屋小学校（19学級）

③ 鹿屋市立東原小学校（8学級）

④ 南さつま市立小湊小学校（4学級）

⑤ 肝付町立宮富小学校（4学級）

- 単式学級のみ
- 主に時数の取り方とその運用に関する調査研究

- 複式学級
- 主に複式学級における指導の在り方に関する調査研究

### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

- ※ どの学校も土曜授業を含めた教育課程全体の見直しを行った上で、15分の短時間学習の活用及び週単位時間数の増加等の工夫により時数を確保
- ※ 第3・4学年の外国語活動については、**全て45分授業**で35コマを確保
- ※ 第5・6学年の外国語については、短時間学習と週単位時間数増加等の複数を組み合わせて+35コマを確保

### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

##### 事例1 【南さつま市立万世小学校】

- 5・6年生は朝の活動の時間（国語や算数の補充学習）を活用して15分のモジュール学習を実施
- 原則週に2回（火・木）
- 年間30回行い10コマを確保

既存の外国語活動の時数	35時間
学校行事の精選	10時間
予備時数から	15時間
モジュール（15分×30回）	10時間
計	70時間

低・中学年（従来通り）		5・6年（平成30年度から）	
8:15～ 8:20	出席確認・健康観察	8:15～ 8:20	出席確認・健康観察
8:20～ 8:30	朝読書（職朝等）	8:20～ 8:30	朝読書（職朝等）
8:30～ 8:40	チャレンジタイム	8:30～ 8:45	モジュール学習
8:40～ 8:50	朝の会	8:45～ 8:50	朝の会
8:50～ 9:35	1校時	8:50～ 9:35	1校時

### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

##### 事例2【南さつま市立小湊小学校】

- 月曜日の6校時に授業を実施
- 月曜は朝と業間の活動，掃除の時間をカットし，従来と同じ時間に職員会議・職員研修を実施
- 2校時と3校時の業間に12回（4コマ）のモジュール学習を実施

既存の外国語活動の時数	35時間
月曜6校時の新設	31時間
モジュール（15分×12回）	4時間
計	70時間

### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

##### 事例3 【鹿屋市立鹿屋小学校・東原小学校】

###### 【第3・4学年】

- 週2回，国語科で15分の短時間学習実施により，3週間で2コマ確保

###### 【第5・6学年】

- 朝の活動の時間に，15分の短時間学習を30回実施し，10コマ確保
- 原則週2回，水・金に実施

		低学年	中学年	高学年
外国語(中:35 高:70)		20	35	70
内訳	外国語活動			35
	総合的な学習の時間			
	モジュール			10
	予備時数	20	35	25
総合的な学習の時間(70)			70	70

### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

##### 事例3 【鹿屋市立鹿屋小学校・東原小学校】

#### 15分＋45分の60分授業

- 朝の15分短時間学習に続けて1校時の授業を試験的に数回実施

#### <課題>

「児童の集中力が続かない。」などの意見があり、発表の場やALTや他学級等との交流活動など、60分授業が有効活用できる学習内容について精査していく必要がある。

### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

##### 15分短時間学習実施の成果と課題

###### 成果

- 英語に触れる機会が増えたことにより、自信をもって英語を使うようになった。
- 英語での活動が楽しいと答えたり、授業外でも英語でやり取りを試みたりする児童の姿が見られるようになった。
- 文字への抵抗感が少なくなり、定着が図られてきた。

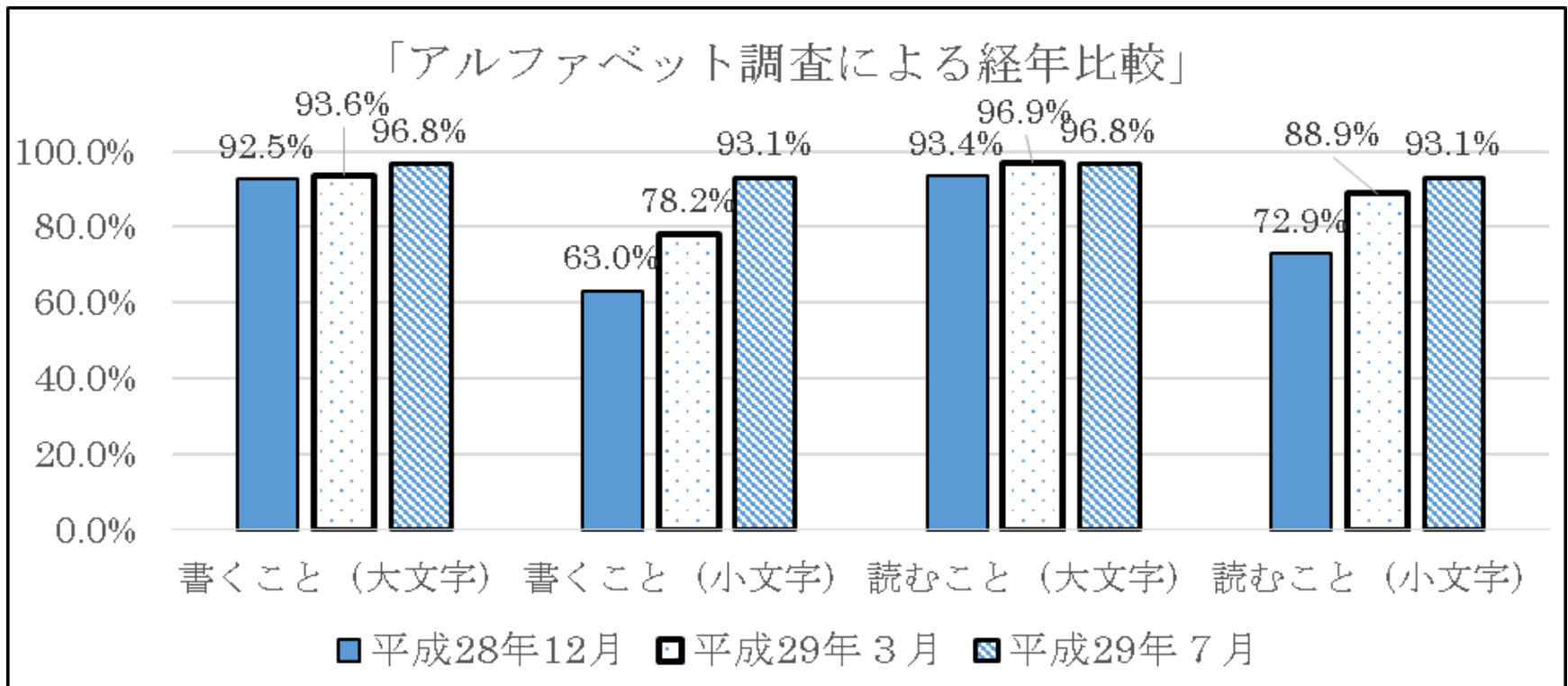
### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

#### 15分短時間学習実施の成果と課題

#### 成果

(鹿屋小6年生)





### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

##### 15分短時間学習実施の成果と課題

##### 課題

- 短時間で児童が集中でき、目標を達成することができるようにするための活動を工夫し、単元の指導の流れに組み込むことが必要
- 15分の短時間学習でできる内容については、活動内容が限定されるため、45分授業と関連付けながら順序よく運用していくことが困難

### 3 調査研究の内容

#### (1) 授業時数を確保する研究実践

##### 15分短時間学習実施の成果と課題

##### 課題解決のために

45分の外国語授業枠を週2回位置付ける。短時間学習を週3回（朝2回，5校時前に1回）位置付け，授業の進捗状況等に応じて国語，算数，外国語を選択して実施できるようにする。

	月	火	水	木	金
朝活動	読書	国・算・外		国・算・外	読書
1					
2					国・算・外
3					
4					
短時間			国・算・外		
5			外国語		
6					

### 3 調査研究の内容

#### (2) 複式学級における研究実践

※ 複式学級を有する調査研究校 2 校において、次の二つの方向性から調査研究を実施

① (南さつま市立小湊小学校)

1, 2 年生担任等の協力による単式指導を基本とし, 2 学年が合同で活動できる複式指導も取り入れた指導計画の作成

② (肝付町立宮富小学校)

A・B 年度方式の複式指導を基本とし, 学年毎の目標が設定された繰り返し単元も位置付けられた指導計画の作成

### 3 調査研究の内容

#### (2) 複式学級における研究実践

##### ① 単式指導を基本とした指導計画（南さつま市立小湊小学校）

- 3・4年生の外国語活動，5・6年生の外国語とともに，1，2年生下校後の月曜の6校時に設定

第3・4学年

3・4年担任  
+  
1年担任

第5・6学年

5・6年担任  
+  
2年担任

### 3 調査研究の内容

#### (2) 複式学級における研究実践

##### ○ 合同で行える15分の活動

- ・ 練習→発表→感想・評価などの流れで行う60分授業
- ・ 部分的に2学年が合同で活動

第5学年

I want to go to Italy.

【合同で】

※ want to～  
を使ったゲーム

※ 観戦計画や  
おすすめの国  
紹介の発表

第6学年

What do you want to watch?

※ 5・6年生の短時間学習は、基本的には5年生に合わせる。

アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット2019

**小学校英語に対応した教育課程  
編成の在り方に関する調査研究  
成果と課題**

【 鹿児島県 肝付町 】

令和元年8月5日(月)

肝付町立宮富小学校



鹿児島県

鹿児島市

桜島

肝付町

やぶさめと  
はやぶさの町へ  
ようこそ！

きもつきちよう

# 肝付町とは？

2つの町が合併した  
東洋のフロリダ！

世界初となる惑星のサンプルリターンを実現した小惑星探査機「はやぶさ」を打ち上げたJAXA内之浦宇宙空間観測所や海ガメの産卵地、伝統のやぶさめも有名！温暖な気候と自然溢れるまさに「東洋のフロリダ」だよ！



はやぶさめくん



いて丸くん

# 1 肝付町の学校

小学校 6 校中， 5 校が小規模校  
そのうち， 3 校が複式学級を有している。

- 町教育施策  
「ICT活用による指導法の  
改善」  
「英語を生かした町づくり」



イプシロン 4号機



## 2 宮富小学校の概要

### ○ 平成31年度(4/6 現在)

- ・ 児童数38人
- ・ 学級数 4 学級 (3・4年, 5・6年が複式学級)
- ・ 職員数10人
- ・ 学校教育目標…心豊かで、確かな学力とたくましく生きる力を持つ宮富の子どもを育てる。

### ○ 研究指定

- ・ 平成29・30年度 文部科学省  
委託

「これからの時代に求められる  
資質・能力を育むためのカリ  
キュラム・マネジメントの在  
り方に関する調査研究」

⇒ 県委託：小学校英語に対応した教育課程編成の在り方  
に関する調査研究





### 3 調査研究の概要

#### (1) 研究計画

##### ア 平成29年度

「時間」という限られた資源を，どのように教育内容と効果的・効率的に組み合わせていくのか。

中学年の外国語活動，高学年の外国語科が導入されることに伴い，3年生から6年生までの学年の授業時数が各35単位時間増加することを踏まえ，時間割編成を検討する。

##### イ 平成30年度

複式授業対応のための指導計画が妥当か。

少人数での効果的な指導をするためのよりよい授業時数の確保と効果的な時間割編成を模索する。

### 3 調査研究の概要

#### (2) 研究内容

ア 限られた「時間」の中での時間割編成の検討

(a) 短時間学習の実施

(b) 土曜授業による時数の確保

(c) 複式授業に対応するための年間指導計画作成

イ 学校組織マネジメントの視点を取り入れた取組  
(チーム宮富としての取組)

(a) 校内研修等の充実

(b) 複式授業に対する指導計画の検討



## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(ア) 限られた「時間」の中での時間割編成の検討

### (a) 朝の時間を使った短時間学習(29年度)

- ・ 7月, 12月を英語月間として設定
- ・ 水曜日の朝の時間(チャレンジタイム)を外国語学習に充当  
〈3・4年, 5・6年〉

平成29年度

## 日 課 表

時 間		月	火	水	木	金	土
8:15~8:25	10	職員朝会 (朝読書)	各種集会 ①全校朝会 ②なかよし集会 ③表現タイム 8:30~移動	チャレンジ タイム	職員朝会 (朝読書)	朝読書	体力アップ! チャレンジかごしま の時間
8:25~8:35	10	委員会・係活動 (指導日)			委員会・係活動 (指導日)	学級ふれあい	
8:35~8:45	10	健康観察・朝の会					
8:45~9:30	45	1 校 時					

## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(ア) 限られた「時間」の中での時間割編成の検討

### (a) 朝の時間を使った短時間学習(29年度)

- ・ 15分×3回=45分(1単位)
  - ・ クラスルームイングリッシュや前時の学習の復習, 次時の学習の予習に活用
  - ・ 「聞くこと」, 「話すこと」に関する内容, 簡単な語句, 基本的な表現の繰り返し
  - ・ 英語に慣れ親しむ時間の増加による意欲の向上
  - ・ 短時間学習と単元との関連を考慮した指導計画が必要
  - ・ チャレンジタイムの活用の在り方を検討
- ※ 行事の精選・見直しにより短時間学習を位置付けなくとも外国語学習が可能となった。





## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(ア) 限られた「時間」の中での時間割編成の検討

(b) 土曜授業を含めた年間計画の見直し(29年度)

- ・ 主体的に考え，判断し，活用できる力の育成
- ・ 基礎学力向上の時間 → 教科時数の増加へ

	28年度			29年度			30年度	
	3・4年	5・6年		3・4年	5・6年		3・4年	5・6年
学力向上	21	21	⇒	23	21	⇒	8	8
行事等	3	3		4	6		7	9
教科指導	0	0		3	3		15	13
合計	24	24		30	30		30	30

- ・ 行事・体験活動等の見直し

## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(ア) 限られた「時間」の中での時間割編成の検討

(c) 複式授業に対応するための年間指導計画の作成

① 行事等の時数・計画見直しの手順

◇ PDCAサイクルによる検討

- ・ 行事等の反省(時数確保の視点も)
- ・ 学校評価
- ・ 教育課程編成会議

※ 反省の吸い上げ→共有化→検討

→次回(次年度)計画へ反映



## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(ア) 限られた「時間」の中での時間割編成の検討

(c) 複式授業に対応するための年間指導計画の作成

② 行事等の時数・計画見直し (H29度～)

29 年度			⇒		30 年度	
創意時数	3・4年	5・6年			3・4年	5・6年
英会話活動	10	0			0	0
その他活動	9	10			1	1
合計	19	10			1	1

- ・ 創意の時数を大幅削減(3・4年英会話活動を外国語活動に充て、他は行事や教科時数に振り分け)



## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(ア) 限られた「時間」の中での時間割編成の検討

(c) 複式授業に対応するための年間指導計画の作成

② 行事等の時数・計画見直し (H29度～)

学校行事時数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
30年度	45	46	49	50	65	63
(29年度比較)	+1	+1	+4	+4	+4	+2

- ・ 創意から5時間を学校行事に移行
- ・ 避難訓練 3 → 1  
(月1回の15分訓練で日常化)

予備時数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
30年度	83	67	60	75	55	52
(29年度比較)	-24	-24	-25	-10	-19	-20

- ・ 複式指導に必要な予備時数の確保

短時間学習  
を位置付け  
なくても、  
3・4年生  
35時間、  
5・6年生  
70時間での  
外国語学習  
が可能に。

## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(イ) 学校組織マネジメント（チーム宮富）の視点を取り入れた取組

### (a) 校内研修の充実

① 30年度実施へ向けて

- ・ カリキュラム・マネジメント研修(H30 2月)  
講師を招聘しての講話等

→ 移行措置期間中で取り扱う内容の未履修防止

複式学級における指導計画の在り方

※ A・B年度案から A・B年度折衷案へ



## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(イ) 学校組織マネジメントの視点を取り入れた取組

### (b) 複式授業に対する指導計画の検討

#### ① 30年度実施へ向けて

- ・ 先進校(島根県)を参考に作成(2月)
- ・ A・B年度折衷案(3・4年も, 5・6年も)  
2本案主体で, 学年別指導も実施  
(移行措置のため, 2年繰り返す内容)

# 4 調査研究の内容 教育課程編成について

- (イ) 学校組織マネジメントの視点を取り入れた取組
- (b) 複式授業に対する指導計画の検討

第5・6学年 外国語科 単元配列表

1 学期	偶数年度(30年度)		奇数年度(31年度)	
	単元名・目標	時数	単元名・目標	時数
「知識・技能」 ○外国語の「技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)」について、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。  「思考力・判断力・表現力」 <外国語> ○興味のある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて考え、友達に質問したり答えたりして表現している。  「学びに向かう態度・人間性」「主体的に学習に取り組む態度」 ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	4月 ⑥	6-1《This is me.》 自己紹介・アルファベット  <b>【目標】</b> ・活字体の大文字、小文字が分かり、文字には読み方のほかに音があることに気付く。 ・自分のことや身近なことについて、短い会話や説明を聞いて概要を捉える。 ・他者に配慮しながら自身の名前や好きな物、欲しい物などを含めて簡単な自己紹介をしようとする。	8 曜日、月、天気。 時刻のいい方には、年間を通して慣れ親しませていく。	
	5月			
5	5-2《When your birthday?》 行事・誕生日		6-2《Welcome to Japan.》 日本へようこそ	
	<b>【目標】</b> ・活字体の文字の書き方や、季節や誕生日		<b>【目標】</b> ・行事や遊び、食べ物についての感想。	

- ② 基本的な考え方
- 《同単元同内容のよさ》
- ・ 共通な学習活動
  - ・ 共通な素材
  - ・ 学年のまとめり、連帯感
  - ・ 上学年を手本
  - ・ 集中した学習
  - ・ 個に応じた指導



## 4 調査研究の内容 教育課程編成について

(イ) 学校組織マネジメントの視点を取り入れた取組

(b) 複式授業に対する指導計画の検討

### ③ 2学年で行う共通単元設定の観点

◎ コミュニケーションの場面

- ・ 特有の表現がよく使われる場面（挨拶，自己紹介，旅行）
- ・ 身近な暮らしに関わる場面（家庭生活，学校生活，地域行事等）

◎ コミュニケーションの働きと発達の段階

- ・ 児童の生活に身近な語彙・表現
- ・ 児童の発達の段階を考慮した言語材料（過去の表現や複数形等）の取扱い

◎ 時期的特性

- ・ 季節の行事や思い出，夢など，実施時期の配慮

# 4 調査研究の内容 教育課程編成について

- (イ) 学校組織マネジメントの視点を取り入れた取組
- (b) 複式授業に対する指導計画の検討

第3・4学年 外国語活動 単元配列表

※ 学年別目標③:3年生, ④:4年生

課題等	1 学期	偶数年度(30年度)		奇数年度(31年度)		課題等
		単元名・目標	時数	単元名・目標	時数	
・本来なら6時間単元のため、3時間では少ない。 ・初めて外国語に触れる単元のため時間をかけた。ただし、低学年内容の定着状況にもよる。 ・4-1では3-4の材料を押さえておく必要がある。Do you like? ・1~20の数、文房具、果物や形など身近な語と出会うが、言語材料が一気に増えるため慣れ親しむにはもう少し時数がほしいと感じる。	③	「知識・技能」 <外国語活動> ○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、外国語に慣れ親しんでいる。	4 月	3-1-2, 4-1<<Hello.How are you? Hello world!>> 英語であいさつ、ごきげんいかが	3	曜日、月、天気、時刻のいい方には、年間を通して慣れ親しませていく。
		「思考力・判断力・表現力」 <外国語活動> ○簡単な語句や表現を使って、自分のことや、身の周りのことについて、友達に質問したり答えたりしている。		【目標】 1) 世界には様々な言語があることに気付くとともに、挨拶や名前の言い方に慣れ親しむ。 2) ③表情やジェスチャーを工夫しながら、名前を言って挨拶し合う。 ④友達と挨拶して、自分の好みなどを伝え合う。 3) ③相手に伝わるように工夫しながら、名前を言って挨拶をかわそうとする。 ④相手に配慮しながら、友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合おうとする。		
	④	「学びに向かう態度・人間性」 「主体的に学習に取り組む態度」 ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	5 月	3-3<<How many?>> 数えてあそぼう	2	
			③	【目標】 1) 日本語と外国の数の数え方のちがいがから、多様な考え方があることに気付く。1から20までの数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 2) 数について尋ねたり答えたりして伝え合う。 3) 相手に伝わるよう工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしようとする。		

- ④ 指導計画作成の留意点
  - ◎ 1・2年生の英会話学習（創意）の内容を3・4年生の1学期の学習内容と重なるよう単元を構成する。
  - ◎ 複式学級上学年は、前年度とは違う関わり方を設定する。



# 5 調査研究の内容 外国語活動・外国語科の指導について

## (1) 複式授業に対応する指導計画の検討(平成30年度)

A・B折衷案は妥当だったか。

- 単元配列に無理はなかったか。
- 異学年活動の学び合いに無理はなかったか。
- コミュニケーションの場は確保できたか。

指導計画に課題を書き込めるよう枠を設けた。

第5・6学年 外国語科 単元配列表

1 学期	偶数年度(30年度)	
	単元名・目標	
課題等	「知識・技能」 ○外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。	5-1<<Hello, every 6-1<<This is me 自己
-6-1は5年生での学習を経てからの学習内容なので、5年生には未履修事項がある。 -今年度5年はアルファベット学習をしていないので、書く作業は大変だった。	「思考力・判断力・表現力」 <外国語> ○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて考え、友達に質問したり答えたりして表現している。	4 月 ⑥ 【目標】 1) 活字体の⑤大し、読む(発音する) 2) ⑤自己紹介を聞 ものや欲しいもの ⑥自己紹介で自 ことなどについて 3) 他者に配慮した ⑤簡単な自己紹 ⑥好きなことや え合おうとする。
	「学びに向かう態度・人間性」「主体的に学習に取り組む態度」 ○外国語を用いてコミュニケーションを円滑に楽しむことや言語を用いてコミュニケーションを円滑に大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを円滑にしている。	5 月

## 5 調査研究の内容 外国語活動・外国語科の指導について

### (2) 未習単元や時数が減っている単元での留意点

- ・ 3年生，5年生にとっては未習の4年生，6年生の既習事項が組み込まれている。  
→ 上学年をモデル（系統が強くないため）
- ・ 指導基本時間より少ない時間設定で指導しなければいけない単元もあり，十分な活動が確保できない。  
→ 少人数指導のよさを生かす（場の確保や見届け）。  
2年間の繰り返し学習でクリアさせる。
- ・ 課題を基に指導計画を見直していく。



## 5 調査研究の内容 外国語活動・外国語科の指導について

### (3) 書くことの指導の留意点

- ・ 現5年生は文字指導を受けていない。  
前学年で文字学習をしている6年生と同時に進められない。  
小文字・大文字の学習が終わるまでは、「We can!」のワークシートが活用できなかった。  
→ 3年生までのローマ字学習の時間を確保する。  
学習後の継続指導や長期休業中の課題に取り組む。  
ローマ字とアルファベットの違いを3・4年生の外国語活動で取り上げる。
- ※ 文字学習を学年差(レベル差)に応じて指導する。  
(H31年度)  
5年生…大文字, 6年生…小文字

# 5 調査研究の内容

外国語活動・外国語科の指導について

## (4) 評価の工夫・留意点

- ・ 振り返りカードの活用  
(単元・1単位時間)
- ・ 観点に沿って自己評価  
(コミュニケーション, 慣れ親しみ, 気付き)
- ・ ポートフォリオ評価
- ・ パフォーマンス評価

### 単元名 (“I want to go to Italy.” 行ってみたい国や地域)

1 今日の授業をふりかえりましょう。

◎=とてもよい ○=よい △=つぎはがんばろう

	① 9月18日	② 9月20日	③ 9月22日	④ 10月2日
ア 今日の英語の学習は楽しかったですか。	◎	◎	◎◎	◎
イ 国名や行きたい場所について、進んで聞いたり言ったりしようと思いましたか。 <small>(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)</small>	◎	○	◎	○
ウ 行きたい国をたずねる表現に慣れましたか。 <small>(外国語への慣れ親しみ)</small>	△	◎	◎	◎
エ 行きたい国を言う表現に慣れましたか。 <small>(外国語への慣れ親しみ)</small>	△	○	◎	◎
オ 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付きましたか。 <small>言語や文化に対する気付き</small>	○	◎	◎	◎

2 ( ) の中から一つ選んで書きましょう。

(できるようになったこと・わかったこと・気づいたこと・もっと知りたいと思ったこと)

1時	日本語と似ているけど発音が少し違うものがたくさんあった。 <small>似ているところ(共通点)や異なる点に気づいたね!!</small>
2時	遊びながらだったので楽しく学ぶことができて良かった。 <small>楽しくボードゲームをしながら、国名やことを覚えたので慣れた!</small>
3時	みんなに質問できたり、答えの言い方も言えるようになった。 <small>こちらの言い方はもう1回練習しようね! ちょっと難しいね...</small>
4時	たずねる言い方になって、ずらずら言えるようになった。 <small>Great!! リズムで覚えたね!</small>



# 5 調査研究の内容

## 外国語活動・外国語科の指導について

### (4) 評価の工夫・留意点

- ・ スモールトークで既習事項確認  
(診断的評価, 形成的な評価)
- ※ 2 学年児童間のレベル差に応じた指導の手立て
- ・ 段階に応じた目標の設定
- ・ 評価の在り方
- ・ レディネスの揃え方

手紙 ( She can run fast. He can jump high. )

今日の授業をふりかえりましょう。

◎=とてもよい ○=よい △=つぎはがんばろう

	① 6月2日
ア 今日の外国語の学習は楽しかったですか。	◎
イ 積極的に友達に「できること」をたずねようとしたか。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)	◎
ウ 「できる」「できない」という表現に慣れましたか。 (外国語への慣れ親しみ)	◎
エ 英語と日本語とでは、言葉の使い方や音に違いがあることに気がきましたか。 (言語や文化に対する気付き)	◎

授業の感想を書きましょう。

(できるようになったこと・がんばったこと・分かったこと・もっと知りたいと思ったことなど)

①時 みんなと、できる、できないを言い合うことができて、とても楽しかった。またやりたり。

## 5 調査研究の内容 外国語活動・外国語科の指導について

### (5) コミュニケーションの場を充実させる工夫

- ・ 異学年のペアやグループによる学び合いにより、自己肯定感を高める授業が展開できる。  
(上学年がモデルとなり、下学年が意欲的に活動)
- ・ テキストを2冊使うため、様々な場面や表現を参考にできる。
- ・ ICT機器の活用が読み書きの一斉指導に効果的である。また、コミュニケーションツールとして有効である。





# 6 指導計画について

- 平成31年度の指導計画の変更点
  - ・ 中学校区でのすり合わせ，小中連携の足掛かり

単元配列や内容等の課題記入欄

学年別目標の設定

第5・6学年 外国語科 単元配列表

※ 学年別目標⑤:5年生, ⑥:6年生

課題等	1 偶数年度(30年度)		奇数年度(31年度)		課題等
	学期	単元名・目標	時数	単元名・目標	
・6-1は5年生での学習を経てからの学習内容なので、5年生には未履修事項がある。 ・今年度5年はアルファベット学習をしていないので、書く作業は大変だった。		「知識・技能」 ○外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。		5-1《Hello, everyone.》 6-1《This is me.》 自己紹介・カルパネット	
		「思考力・判断力・表現力」 <外国語> ○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて考え、友達に質問したり答えたりして表現している。	4月	【目標】 1) 活字体の⑤大文字, ⑥小文字を識別し、読む(発音する)ことができる。 2) ⑤自己紹介を聞いて分かったり、好きなものや欲しいものなどを伝え合ったりする。 ⑥自己紹介で自分の好きなことやできることなどについて伝え合う。 3) 他者に配慮しながら、 ⑤簡単な自己紹介をしようとする。 ⑥好きなことやできることなどについて伝えようとする。	
		「学びに向かう態度・人間性」 「主体的に学習に取り組む態度」 ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	5月		

# 7 成果と課題について

## (1) 教育課程編成

### ① 成果

- ・ 授業時数を生み出すためには、PDCAサイクルによる検証が重要(定期的な検討の場を設定)
- ・ 学校評価や教育課程編成会議等の活用(授業者の反省、児童の声)
- ・ 複式学級における指導計画は、実態を踏まえて複式のよさを生かした授業づくりが重要
- ・ A・B年度折衷案による単元配列の工夫→スパイラルな学び
- ・ コミュニケーションの場の確保
- ・ 児童の自己肯定感の向上(異学年活動による学び合い)
- ・ 複式学級下学年への配慮(リーダーからフォロワーへの配慮)



# 7 成果と課題について

## (1) 教育課程編成

### ② 課題，改善策

- ・ 単元の組合せが適当であったか検討し，指導計画を見直す必要がある。（旅行や食事の場面，話型，順序性）
- ・ 指導と評価の一体化を図る中で2学年の児童間のレベル差を埋める手立てが必要である。  
（段階に応じた目標の設定，評価の在り方，レディネスの揃え方等）
- ・ 定期的な検証の場を設定し，課題や改善策を出し合う必要がある。



# 7 成果と課題について

## (2) 外国語活動・外国語科の指導

### ① 成果

- ・ 共通单元によるスパイラル学習（上学年にとっては復習の場）
- ・ 複式学級下学年への配慮により，上学年がモデルとなる。リーダーとフォロワーの育成，安心して学ぶ授業）
- ・ スモールトークで既習事項の確認（診断的評価，形成的評価）
- ・ 振り返りカードの活用
  - 児童自身の学習内容の確認
  - 教師の学習状況の把握
- ・ ICT機器の活用が効果的

# 7 成果と課題について

## (2) 外国語活動・外国語科の指導

### ・ 複式授業（A・B折衷案）に対する児童の声

（平成30年度）

#### 〈3・4年生〉

#### 〈5・6年生〉

◇ 外国語（英語）の授業でどんな活動が楽しいか（多い順に）。

① Activity

① Activity

② Let's Watch and Think

② Jingle

◇ 外国語（英語）の授業時数が増えたがどうか（多い順に）。

① 英語が好きになった。

① 英語を話せるようになりうれしい。

② 英語が分かるようになり楽しい。

② 英語が好きになった。

③ 難しい英語が出てきて大変だけど  
がんばっている。

③ 英語が分かるようになり楽しい。

◇ 相手の学年のよいところはどこか（主な意見）。

○ インタビューでペラペラ話せる。

○ 英語を覚えるのが早い。

○ 英語がうまい。

○ 教えてくれる。

○ 教えてくれる。

○ たくさんの英語を使える。



# 7 成果と課題について

## (2) 外国語活動・外国語科の指導

### ② 課題

- ・ 未習単元や時数削減単元では，配慮が必要。  
（ポイントを絞る。既習内容を生かす。上学年をモデルとする。）
- ・ 継続的に書く指導を取り入れる。
- ・ 段階に応じた目標の設定，評価の在り方やレディネスの揃え方を研究していきたい。
- ・ 教科書を2冊使うため（2学年分），申請に気を付ける。
- ・ 英語専科やALTの活用を計画的に進める。

## 4 調査研究の成果と課題〈全体を通して〉

### 成果

- 外国語の授業を生み出すための取組を通して、各学校における児童の実態の捉え直し、教育課程全般の見直しがよく図られていた。
- 教員の協力体制、結束力がより高まっている様子がうかがえる。
- 児童が自信をもち、楽しんで英語を使う姿が多く報告された。



## 4 調査研究の成果と課題〈全体を通して〉

### 課題

- 研究内容の効果を測るための検証記録を取り，改善に生かしていく必要がある。
- 複式学級における指導は，個の成長に即した指導に努め，コミュニケーションを豊かにするための方法（人材やICTの活用等）を模索する必要がある。
- 教員の研修の充実を図るとともに，持続可能なよりよい方法の研究に努める。